

発行：日本リスク研究学会(The Society for Risk Analysis: Japan-Section)

会長：横山 栄二

事務局：〒305 つくば市天王台 1-1-1

筑波大学社会工学系 池田研究室気付 発行責任者・事務局担当理事

TEL. 0298(53)5380 FAX. (55)3849

池田 三郎

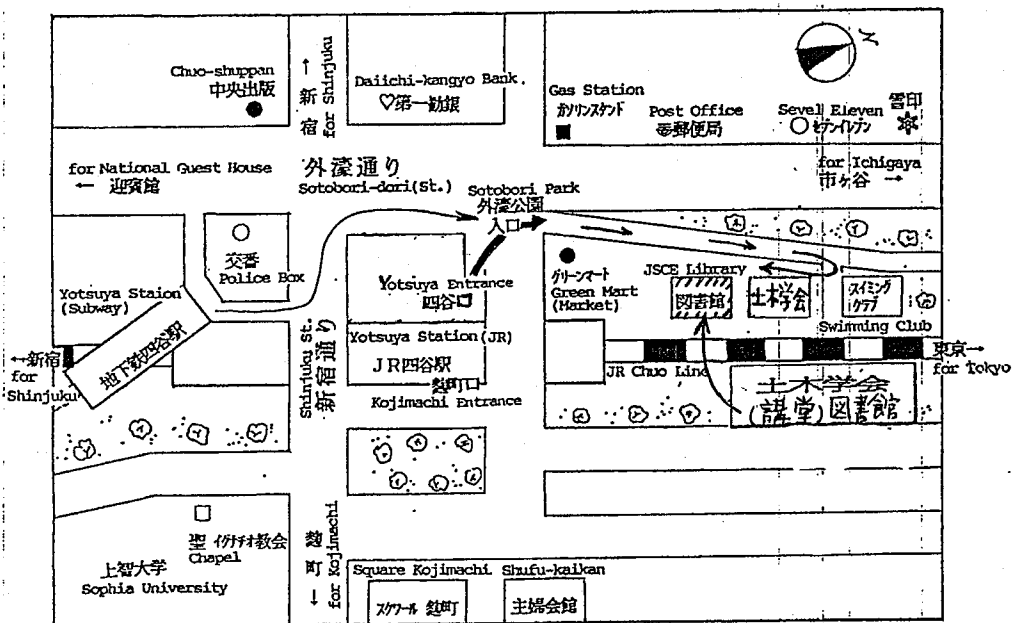
--- 目次 ---

1. 第4回研究発表会のプログラムと会場案内
2. リスク研究学会誌第3巻目次
3. 事務局だより
 - リスク関連学会・会議のお知らせ
 - SRAニュース
 - その他

1. 第4回研究発表会のプログラム

日本リスク研究学会の第4回研究発表会の日程とプログラムが決まりました。1991年度学会は11月29日と30日の2日間ですが、1日でも奮ってご参加下さい。特別講演として国立公衆衛生院の田中勝氏による「廃棄物処理におけるリスク管理」をお願いし、それに関連して「リスクアセスメントを考慮した最終処分計画」と題してシンポジウムとパネル討論を行います。

- (1) 日時：1991年11月29日(金)、30日(土)
- (2) 場所：(社)土木学会講堂(東京都新宿区四谷一丁目無番地：JR中央線、地下鉄丸の内線四谷駅下車徒歩5分外濠公園土木図書館横)
- (3) 参加費：3,000円(予定)(講演要旨集、会場費を含む)



(4) プログラム

11月29日(金)

一般セッション I (リスク評価) 10:00 - 12:00

司会 草間朋子 (東京大学)

(1) 大気中有機化学物質の健康リスク評価

三浦 卓 (国立環境研究所)

田辺 潔 (国立公衆衛生院)

相馬悠子 (国立環境研究所)

(2) 道路環境影響評価と沿道生活者のリスク

伊瀬洋昭 (東京都立アイトーブ 総合研究所)

(3) 複数物質による発がんリスクの評価の試み—肝がんプロモーターの例から—

関沢 純、五十嵐貴子、

神沼二真 (国立衛生試験所)

(4) ジーゼル排出ガスと肺癌のrisk-characterizationの試み

和田篤也 (大阪府環境保健部)

森永謙二 (大阪府立成人病センター)

小竹久平 (鳥取県衛生環境部)

(5) HyperCard を用いたリスク評価支援データベースの構築

富田裕之、相崎裕恒、甲斐倫明、

草間朋子 (東京大学)

(理事会 12:05 - 13:00)

特別講演 13:10 - 14:00

司会 池田三郎 (筑波大学)

『廃棄物処理におけるリスク管理』

田中 勝 (国立公衆衛生院)

シンポジウム及び討論会 14:00 - 17:00

総合司会 池田三郎、田中 勝

『リスクアセスメントを考慮した最終処分計画』

発表者・パネラー

中村正久 (滋賀県琵琶湖研究所) : 廃棄物処理のリスク管理と社会的意思決定

盛岡 通 (大阪大学) : 環境リスク診断

森沢眞輔 (京都大学) : 廃棄物処理システムのリスク同定と評価の試み

古市 徹 (国立公衆衛生院) : 環境リスクを配慮した処分場立地計画論

懇親会 17:10 - 18:30

11月30日(土)

一般セッション II 10:00 - 12:00

司会 内山巖雄 (国立公衆衛生院)

(リスク管理とコミュニケーション)

(1) 日本人公衆のリスク認識の実体

松原純子、吉永信治 (東京大学)

(2) 日常生活のリスクとレジャーリスク

岩崎民子 (放射線医学研究所)

(3) 主観的リスク評価の規定因: 私的リスクか集団リスクか

山口 勤 (東京大学)

(4) 化学物質規制におけるコスト・ベネフィット分析法の応用について (II)

—ケーススタディ、ガソリン中のベンゼン— 内山巖雄、横山栄二 (国立公衆衛生院)

(5) リスク学 (Riskology) における物質的リスク管理と財務的リスク管理の相関

佐成重範 ((財) J T E C)

企画セッション 13:00 - 15:30

(モラル・リスクとモラル・ハザードをめぐる問題)

司会及びレビュー

酒井泰弘 (筑波大学)

(1) 社会と保険

田村祐一郎 (姫路独協大学)

(2) 生命保険のリスク・経済分析

三辺誠夫 (広島大学)

(3) モラル・ハザードと保険構造

高尾 厚 (神戸大学)

(4) A I D ウイルス発見をめぐる

小野克彦 (愛知県ガンセンター)

2. 学会誌第3巻の目次(10月下旬に発送予定)

日本リスク研究学会誌

第3巻 第1号 (1991年10月)

目次

【巻頭論文】	
海外における化学物質のリスク評価とリスク管理の最近の動向	・大島輝夫
【解説論文】	
リスク費用・便益分析: レビュー	・酒井泰弘
持続的環境資源利用にはたすリスク管理手法の役割: 序説	・北島能房
製造物責任とリスクの分散レビュー	・朝見行弘
【シンポジウム】	
第4回春期講演シンポジウムについて—エネルギー問題をリスクの視点から考える—	・草間朋子・天野博正(編)
【寄稿論文】	
リスク学(Riskology)の概念及び体系の構築	・佐成重範
不完全情報下における製造物責任	・中島 巖
HIV(エイズウイルス)感染防止ポスターの評価に関する日米比較研究	・広瀬弘忠
リスク情報提供効果の計測—医薬品リスクの場合	・池田三郎・西村周三 ・盛岡 通・山本康正
農薬用化学物質の食品経路摂取によるリスク評価の試み	・関沢 純
Fluctuations in environmental qualities and public services	・Toshiko Akiyama
【研究論文】	
リスク要因値が不均一な集団のリスク評価	・佐久間美明
TBT化合物のリスクと便益の分析—大阪湾の事例研究—	・肖 顕書・盛岡 通 ・末石富太郎
階層分析法を用いたリスク比較法に関する考察	・甲斐倫明・斉藤史郎 ・草間朋子
【研究短信】	
気候変動による電気事業への影響	・天野博正
企業の情報システムリスクマネジメント	・八角隆夫
CERRAと土木計画研究	・黒田勝彦
地球環境問題と欧米の環境汚染リスク	・加藤和彦
重金属を指標とした環境長期間モニタリング	・池田正之
琵琶湖研究所の研究課題とリスク問題	・中村正久
廃棄物処理におけるリスク管理	・田中 勝
化学物質のリスク管理に関する最近の研究	・内山巖雄・横山栄二
都市水系のリスク評価とリスク対話支援システム	・池田三郎
事務局だより	
日本リスク研究学会規約	
投稿規定及び原稿作成要領	
日本リスク研究学会会員名簿	

3. 事務局だより

3.1 年会費(1991年度)納入のお願い

本年度の会費の納入率は現在のところ約70%です。会費収入の大部分は学会誌の発行・送料に充当しますので未納の会員の方は早急に納入をお願い致します。

正会員： 4,000円

準会員： 2,500円

賛助会員： 30,000円

送付先：(郵便振替口座番号) 宇都宮-3-11964

日本リスク研究学会

〒305 つくば市天王台1-1-1 筑波大学社会工学系池田研究室気付

3.2 リスク関連の学会・会議のお知らせ

第7回環境工学連合講演会プログラム

統一テーマ「ライフスタイルの転換へ向けて」

総合司会 浦野 紘平(日本水環境学会、横浜国立大学)

第1日 1月21日(火)

開催場所：日本学術会議講堂(東京都港六本木7丁目22-34)
地下鉄千代田線「乃木坂」下車
Tel. 03-3403-6291

9:00~9:10 開会挨拶 松本順一郎(学術会議会員、土木学会、日本大学)

9:10~10:30 講演・討議 「安全と健康」

座長 官野秋彦(日本建築学会、福山大学)

(1) 人の健康リスクの評価方法 -生活環境中の化学物質を例として-
内山巖雄(日本リスク研究学会、国立公衆衛生院)

(2) 住環境における快適性と健康性 -教育現場から見た問題-
浅見雅子(日本建築学会、山梨大学)

10:30~10:40 休憩(討議の予備時間)

10:40~12:00 講演・討議 「地域環境」

座長 紀谷文樹(空調和・衛生工学会、東京工業大学)

(3) 水環境政策の課題と展望

須藤隆一(日本水環境学会、東北大学)

(4) これからの地域開発とエネルギー供給

成田勝彦(空調和・衛生工学会、東京電力(株))

12:00~13:00 昼食

13:00~14:00 特別講演

座長 二瓶好正(日本化学会、東京大学生研)

(5) 科学技術と環境汚染-技術発展の流れを顧みその転換に期待して-

永見康二(大気汚染研究協会、日本環境衛生センター)

14:00~17:00 パネル討論会「身近な水の水質」

座長 松尾友矩(日本水環境学会、土木学会、東京大学)

(6) おいしい水と水質

河野恭一郎(日本水環境学会、東京都)

(7) 水の安全性と水質

浦野 紘平(日本水環境学会、日本化学会、横浜国立大学)

(8) 家庭でできる水質検査

橘谷 博(日本分析化学会、島根大学)

(9) 水文化と水質

嘉田 由紀子(日本水環境学会、滋賀県)

※2日 1月22日(水)

午前 講演・討議 「熱エネルギー(1)」「熱エネルギー(2)」 (詳細2007年1月は事務局より)

午後 講演・討議 「廃棄物の抑制・処理と再利用(1)」

「 (2)」

RISK *newsletter*

Published by the SOCIETY for RISK ANALYSIS

Volume 11, Number 2

May, 1991

SRA Sections, Chapters Expand Scope of Society

Even a cursory examination of this issue of *RISK newsletter* will reveal that the sections and chapters of the Society for Risk Analysis are a driving force that is rapidly expanding the number of risk issues on which the Society is focusing. And since most of the issues are of international and/or interdisciplinary concern, they are increasingly being addressed through collaborative efforts with other organizations. The SRA-Japan Section, for example, is joining with Japan's National Institute for Environmental Studies to co-sponsor a November international symposium titled "Risk Assessment on Chemicals." During the same month, the section will hold its own Fourth Annual Conference, using the theme "Moral Hazards and Risks."

Late last year, the SRA-Europe Section successfully collaborated with the USSR Academy of Sciences in organizing an environmental risk management conference held in Kiev. Now the section is planning to address several "cross-border" concerns at its third section conference, which will have the theme "Risk Analysis—Underlying Rationales." The conference will be held in Paris in December.

SRA, Philippines, an affiliate of the international SRA, is also hard at work in a cooperative effort to assess environmental and health risks associated with the introduction of transportation and communication systems in the developing world. During a major international congress/exhibition (Trans Comm '92) to be held next March in

(Continued on page 2.)

PSAM: A Success Story

by Larry Froebe
Southern California Chapter

In spite of increased airport security and reduced international travel during the Iraqi war, 480 professionals from the People's Republic of China, Brazil, the Soviet Union and many other countries gathered in Beverly Hills, California, on February 4-7, 1991, to attend SRA's International Conference on Probabilistic Safety Assessment and Management (PSAM), organized and hosted by the Southern California Chapter.

The idea for PSAM began in August 1988 with Professor George Apostolakis of the University of California in Los Angeles (UCLA). Perceiving the need to span all fields of risk assessment in one neutral forum for technical exchange, he first captured the imagination of the Executive Committee of the Southern California Chapter (SCSRA), later convincing the council of the Society for Risk Analysis that SRA should be the primary sponsor of the conference.

To build the technical program, Apostolakis organized a Senior Advisory Board, which included nine distinguished professionals from around the world and was chaired by B. John Garrick, president of PLG, Inc. and immediate past president of SRA. Taking advantage of his own professional network and the assistance of the Senior Advisory Board, Apostolakis then established a Technical Program Committee of 75 renowned risk assessment professionals. As a result, the Call for Papers, issued in 1989, was a resounding success.

To promote participation by professionals from diverse backgrounds, the Local Organizing Committee enlisted several societies and companies as co-sponsors, including the American Nuclear Society, the American Society of Civil Engineers, the American Society of Mechanical Engineers, the European Safety and Reliability Association, the IEEE Reliability Society, the Society of Automotive Engineers, and the Systems Safety Society. Support was also solicited from A. D. Little, Inc., ASI Systems International, IT Corporation, Lawrence Livermore National Laboratory, NUS Corporation, PRC, Inc., PLG, Inc., Scientech, Inc., TRW, Inc., and Unocal Corporation.

(Continued on page 3.)

3.4 第4回研究発表会 参加申し込み書

研究発表会（1991年会）への参加申し込みを事務局あてにご返送下さい。
 （締切：11月9日）

氏名		会員 種別	会員 準会員、	賛助会員
所属				
連絡先 Tel.	〒()			
参加 種別	研究発表会 11月29日 11月30日	懇親会 11月29日	丸で囲んで下さい	
講演 要旨集	必要部数 部			
新会員 の 紹介先				
学会 への 意見 以外				